

事業計画書

事業名	幸谷関さんの森昔のくらし館設置及び冊子発行事業
団体名	関さんの森エコミュージアム

事業概要

道路計画を変更して保存された、江戸時代から続く古い蔵と門、蔵に保存されている古文書や昔の生活用品等は、貴重な歴史・文化遺産である。これらを保存・展示し、市民に幸谷村の人々の暮らしの歴史と文化を、見て体験してもらう「幸谷関さんの森昔のくらし館」を設置する。また、歴史的・文化的な資産を次代に引き継ぐため、これまで集積した古文書を読み解いて得られた知見を整理してまとめ、冊子として発行する。

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸市は急激な都市化等に伴い、文化財の継承が危機的な状況になりつつある。2023年に策定された「松戸市文化財保存活用地域計画」は、『市民の「ふるさと松戸」への愛着と誇りを醸成し、地域固有の歴史的・文化的な資産を次世代へ引き継ぐこと』を目指している。</p> <p>松戸の原風景である関家の門や蔵も、地域の人々と協働して郷土の文化財として保存・活用することが焦眉の課題で、魅力あるまちづくりに必要である。</p>
---------------------	--

事業の目的	<p>関家は幸谷村の名主を務め、江戸時代に建てられた3つの蔵と門が現存し、古文書や昔の生活用品等が大量に保存されている。これらを幸谷地区の歴史的・文化的な資産として公開し、次世代へ引き継ぐことを目的とする。</p> <p>① 古文書(約 3,500点)は、当会の古文書グループにより調査が進み、その成果は新松戸のタウン情報誌上で「関さんの蔵通信」として100余回にわたり連載されている。これを、江戸時代の幸谷村の人々の暮らしの記録として市民に提供し、古文書に親しんでもらうための冊子を発行する。</p> <p>② 3つの蔵の保存物品の調査を進め、その全容を記録して明らかにする。</p> <p>③ 蔵の修繕と展示用の改装をすすめ、古文書や昔の生活用品等を展示する「昔のくらし館」を開館し、学びや体験の場として提供する。</p>
-------	---

事業内容	<p>1 事業内容</p> <p>① 「昔のくらし館」設置にあたり、博物館運営の専門家をアドバイザーとして招き、所蔵する生活用品や古文書等の展示や公開のあり方を検討し、展示コンセプトを決定する。</p> <p>② 江戸時代から続く3つの蔵と門を、適切に修繕・保存する。</p> <p>③ 蔵に保存されている生活用品等を1点ごとに調べ、保存台帳を完成させる。</p> <p>④ 「関さんの蔵通信」100号分の内容を整理し、幸谷村民の生活、領主とのかかわり、災害への対応、村の事件など10章にまとめた冊子を発行する。</p> <p>⑤ 蔵の保存物品・古文書などの資料の、「昔のくらし館」での展示や公開にあたり、展示用パネルや解説リーフレットを作成する。また、開館イベント開催を広く市民に宣伝するために、チラシ・ポスター・配布資料を作成する。</p> <p>⑥ 「昔のくらし館」を開館し、市民を対象に開館記念のイベントを開催する。イベントでは、蔵通信をまとめた冊子を配布する。</p>
------	---

2 スケジュール		
実施月	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など
通年 (月2回)	門と蔵及び屋敷林の維持管理作業及び終了後に会議を実施。	第1,3日曜日、会員及び関さんの森を育む会の会員約20名

	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>通年 (月1回)</td> <td>古文書の目録作りと整理、読み解く等の作業を行う。</td> <td>会員(古文書グループ9名) 関家屋敷内「森のサロン」にて</td> </tr> <tr> <td>通年 (月1回)</td> <td>蔵の壁などの修繕と整備。蔵の保存物品を調査し、保存台帳を作成する。</td> <td>会員(おもに建築士4名)が、関家屋敷内でおこなう。</td> </tr> <tr> <td>4~8月</td> <td>「昔のくらし館」の開館記念イベント等に使用する、「蔵通信100号」をまとめた冊子を編集し、300部を印刷する。</td> <td>編集・校正作業は会員(古文書グループ)が「森のサロン」で行う。冊子の印刷は外注する。</td> </tr> <tr> <td>5,10月</td> <td>古民家や博物館等の展示に関する専門家をアドバイザーとして招き、展示方法等を検討する。</td> <td>会員が博物館運営の専門家(外部)に2回の指導を受け、蔵の展示コンセプトを決定する。</td> </tr> <tr> <td>7~12月</td> <td>関家保存の木材を使用して古文書展示用の額を作成する。</td> <td>会員(おもに建築士4名)が、作成する。</td> </tr> <tr> <td>1~3月</td> <td>展示用パネル・解説リーフレット、イベント開催用のチラシ・ポスター・配布資料を作成する。</td> <td>会員が編集・デザインし、外注する。</td> </tr> <tr> <td>3月下旬</td> <td>「昔のくらし館」開館記念イベントを開催する。</td> <td>市民200名を招き開催する。参加者に冊子や資料を配布する。</td> </tr> </tbody> </table>	通年 (月1回)	古文書の目録作りと整理、読み解く等の作業を行う。	会員(古文書グループ9名) 関家屋敷内「森のサロン」にて	通年 (月1回)	蔵の壁などの修繕と整備。蔵の保存物品を調査し、保存台帳を作成する。	会員(おもに建築士4名)が、関家屋敷内でおこなう。	4~8月	「昔のくらし館」の開館記念イベント等に使用する、「蔵通信100号」をまとめた冊子を編集し、300部を印刷する。	編集・校正作業は会員(古文書グループ)が「森のサロン」で行う。冊子の印刷は外注する。	5,10月	古民家や博物館等の展示に関する専門家をアドバイザーとして招き、展示方法等を検討する。	会員が博物館運営の専門家(外部)に2回の指導を受け、蔵の展示コンセプトを決定する。	7~12月	関家保存の木材を使用して古文書展示用の額を作成する。	会員(おもに建築士4名)が、作成する。	1~3月	展示用パネル・解説リーフレット、イベント開催用のチラシ・ポスター・配布資料を作成する。	会員が編集・デザインし、外注する。	3月下旬	「昔のくらし館」開館記念イベントを開催する。	市民200名を招き開催する。参加者に冊子や資料を配布する。
通年 (月1回)	古文書の目録作りと整理、読み解く等の作業を行う。	会員(古文書グループ9名) 関家屋敷内「森のサロン」にて																				
通年 (月1回)	蔵の壁などの修繕と整備。蔵の保存物品を調査し、保存台帳を作成する。	会員(おもに建築士4名)が、関家屋敷内でおこなう。																				
4~8月	「昔のくらし館」の開館記念イベント等に使用する、「蔵通信100号」をまとめた冊子を編集し、300部を印刷する。	編集・校正作業は会員(古文書グループ)が「森のサロン」で行う。冊子の印刷は外注する。																				
5,10月	古民家や博物館等の展示に関する専門家をアドバイザーとして招き、展示方法等を検討する。	会員が博物館運営の専門家(外部)に2回の指導を受け、蔵の展示コンセプトを決定する。																				
7~12月	関家保存の木材を使用して古文書展示用の額を作成する。	会員(おもに建築士4名)が、作成する。																				
1~3月	展示用パネル・解説リーフレット、イベント開催用のチラシ・ポスター・配布資料を作成する。	会員が編集・デザインし、外注する。																				
3月下旬	「昔のくらし館」開館記念イベントを開催する。	市民200名を招き開催する。参加者に冊子や資料を配布する。																				
既存の事業からステップアップする部分	<p>① 関家の3つの蔵と門は、2016年に千葉県建築士会の助成を受け、地元建築士の協力で調査・保存活動を開始し、建物の外郭と中の整理は一応終了した。一方、収納された生活用品等の1点ごとの調査・台帳への記載が未完成だったが、本事業の期間内に完了し、その全容を明らかにする。</p> <p>② 関家古文書は、2008年より当会の古文書グループを立ち上げ、現松戸市立博物館館長の指導を受けて、整理保存と読み解く作業を行ってきた。本事業は、古文書調査の成果を冊子にまとめる。また、新たに古文書関係の資料を展示に加える。</p> <p>③ 生活用品を陳列した展示室は2019年に整備した。本事業では改めて展示室のコンセプトを検討し、展示する生活用品等を見直し、さらに古文書の展示や3つの蔵や門の資料を加えて充実させ、「昔のくらし館」として開館する。</p>																					
事業の目標	<p>① 蔵に保存されている生活用品等の調査及び台帳への記載を完了する。</p> <p>② 「蔵通信100号」をまとめた冊子を発行し、開館記念イベント等で提供する。</p> <p>③ 「昔のくらし館」を開館し、市民に公開する。</p> <p>④ 開館記念イベントを、市民200人を招いて開催する。</p>																					
今後の展望	<p>関さんの森2.1haの約8割は「特別緑地保全地区」に指定され、将来とも保存されることになっており、すでに屋敷林は常時公開されている。一方、関家の庭や門・蔵は現在のところ、その一部が月1回の限定公開となっている。</p> <p>本事業の「昔のくらし館」開館を契機に、全面公開に向けての足場としたい。そして、門や蔵を含めた関さんの森全体を、市民に愛される身近な体験や学びの場(エコミュージアム)として、次世代に引き継いでいきたい。「昔のくらし館」は当面月1回定例日に開館するが、学校等の要望に応じて臨時でも公開する。</p> <p>なお、蔵に保存された古い生活用品等は、物を大切にリサイクルして使ったものが多く、持続可能な社会の実現に向けての学習に使える。また、認知症の予防となる「回想法」にも必要な品であり、今後はその活用の実践に努めたい。</p>																					

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 53,000	事業費の一部を団体の会計より支出
	昔のくらし館オープン事業参加料	¥ 40,000	オープン記念事業参加費 200円×200人 (小人無料)
	100号記念有償配布収入	¥ 60,000	印刷物の有償配布代 600円×100部
	自己資金の合計額 (A)	¥ 153,000	
市	市民活動助成金 (B)	¥ 300,000	
合計額 (C) = (A+B)		¥ 453,000	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 60,000	アドバイザー謝金 30,000円×2回
	消耗品費	¥ 18,350	プリンターインク 1,250円×2個 A4コピー用紙 450円×1個 展示用木製額作成費 アクリル板 6,200円×2個 合板 1,500円×2枚
	印刷製本費	¥ 66,900	記念事業チラシ A4カラー 4円×1,000枚 記念事業ポスター A3カラー 260円×40枚 記念事業配布資料 A4カラー 30円×250部 くらし館リーフレット A4両面カラー 15円×3,000枚円
		¥ 165,000	100号記念誌作成費 200頁A5版無線綴じ 550円×300部
	通信運搬費	¥ 5,150	資料郵送料他 スマートレター 210円×5枚 宅配便 820円×5個
	委託料	¥ 21,600	展示用パネル作成費 A1カラー 5,400円×4枚
	保険料	¥ 6,000	行事保険料 くらし館開館記念イベント開催時
	対象経費の合計 (D)		¥ 343,000
その他経費	印刷製本費	¥ 110,000	100号記念誌作成費 200頁A5版無線綴じ 550円×200部
	その他経費の合計 (E)		¥ 110,000
合計額 (F) = (D+E)		¥ 453,000	

【チェック項目】

- 1 助成金 (B) が対象となる経費 (D) 欄の90%以内、自己資金 (A) 欄が対象経費 (D) 欄の10%以上であること
- 2 助成金 (B) が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。